

於て歸靡立つて肥王と號せり。昭帝の時(紀元前八十年代)匈奴、烏孫を撃ち、車延、惡師の地を奪ふ。王上書して救を請ふ。宣帝立ち、五將の兵を發し、直に匈奴を攻む。匈奴既に衰へ、深く烏孫を怨みとす。其冬、單于自ら烏孫を撃ちしが、偶々天大に雪を降らし、還る者十分一なる能はず。匈奴遂に衰ふ、時に本始三年(紀元前七十年)とす。

元康二年(紀元前六十四年)翁歸靡死す。國人即ち前約を守り、泥靡を立て、狂王と稱す。狂王の男、鴟靡文と和せず。爲めに衆の心を失ふ。漢使、魏和意、任昌、其の國に至るや、狂王之を殺さんとして、却て翁歸靡胡婦の子、烏就屠に刺され、烏就屠立ちて小昆彌と號し、翁歸靡の正子、元貴靡又立ちて大昆彌と號し、國內兩分して竝に漢に降る。甘露三年(紀元前五十年)元貴靡歿し、子星靡嗣ぐ、星靡死して、子雌栗靡嗣ぐ、又烏就屠の歿後、子柎離嗣ぐ。然るに柎離弟、日貳の爲めに殺され、漢柎離の子、安日を立つ。安日客をして日貳を殺さしめしも、身亦降民の刺す所と爲る。因て漢、其弟、未振將を王とす。未振將後、雌栗靡を殺すに當り、漢栗靡の季子、伊犁靡を立て、未振將幾許ならず、刺殺せられ、安日の子、安犁靡代り立ち、以來連綿、兩昆彌常に大國を成し、章帝の建初八年(三十八年)大小昆彌共に、錦帛の賜を受けしより、爾後更に史に見えずと云ふ。